

2026 年度 (令和8年度) 学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 4	福山市立鷹取中学校
最終更新日	2026年 (令和8年) 4月1日	

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

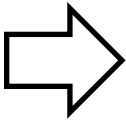
前年度学校運営協議会 (学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	知識・技能 課題発見・解決力 主体性
・地域を大切に思う児童生徒を育成してほしい。 ・コミュニティスクールを導入して地域と学校が交流することができるようになってきた。さらに学校の良いところを積極的に発信してほしい。 ・児童生徒と共に会議をし地域課題を考えていくことを継続する。	・基礎学力は概ね定着しているが、思考力に課題がある。 ・人間関係づくりが苦手なこどもが増えている。 ・長欠、不登校のこどもが一定数おり、取組をしているが改善が難しい。 ・コミュニティスクールでの活動を通してあいさつができる児童生徒が増えた。	めざすこども像 (義務教育修了時の姿)	気づき 考え 行動する こども
		中学校区として 統一した取組等	・こどもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進 ・地域活動に自ら参加し、地域とともに課題解決できる児童生徒の育成 ・教職員の笑顔、元気、やる気

III 自 校

学校教育目標
挑戦する心を持ち、未来を創造できる生徒の育成

現 状
<児童生徒> ○生徒は非常に素直で、課題等やらなければならないことはやろうと努力する生徒が多い。また、自分の意見や考えをもち、それを文章にする力や表現する力はついてきている。しかし、基本的な知識や用語の定着、その知識を活用して説明する力は定着していない。
<授業> ○各教科 ICT を活用し、生徒の学習意欲を高める工夫をしながら授業を進めている。 ○授業の中で指導者があらかじめ教材や方法をすべて準備しているため、子どもが、見通しをもって単元内で自分の学習計画を立て、課題も自分で考え探究する教科が少ない。子どもたちが、自分の学び方を選び、学びをデザインできるような授業を目指したい。

育成する 資質・能力	知識・技能	課題発見・解決力	主体性
めざす こども像	課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けている。	問いを見だし、その解決において仮説を立てたり、結果を予測しながら実行したり、調査して得た情報を元に自分の考えを形成・表現したりするとともに、仲間と互いの考えを伝え合うことで多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりすることなどをおして課題解決したことを、次の課題発見・解決につなげていくことができる。	すべての学習や活動に主体的・協働的に取り組むとともに、仲間と互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとしている。
研究	テーマ 生徒が「考え」「わかる」「できる」授業づくり	内容等 ～ 挑戦し、自らの学習を自ら考え、デザインできる生徒の育成 ～	
めざす授業の姿	・考える仕掛けのある授業 ・多様な自己表現の場がある授業 ・学びの価値が感じられる授業 ・こどもが自ら「決められる」場がある授業		



分かる・できたを感じる授業
学びが面白いと感じる授業
もっと知りたいと感じる授業
次へ繋がる振り返りのある授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立鷹取中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	こどもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進	1	継続	「分かった・できた」が実感できる授業づくりを推進する。 - 生徒主体の活動を通して、自ら考え、行動する力と協調性を育む。	- ICTを活用した鷹取中学校探究スタイルを推進し、生徒に力がついているかを小テスト等で確認する。 - 各調査の分析を全教科で行い、つまずきの把握と課題解決に向けた授業づくりや研修を行う。 - 縦割り集団で活動する場を設定し、リーダーを中心に生徒主体の行事づくりを進める。	- 授業に関するアンケート項目肯定的評価85%以上 - 生徒主体の活動に関するアンケート項目肯定的評価90%以上 - 長欠不登校生徒の割合昨年度より減少(昨年度8.0%)									
2	地域課題に気づき、地域とともに課題解決できる児童生徒の育成	2	継続	地域との連動を進めながら、地域に貢献できる生徒の育成を目指した取り組みを進める。	コミュニティスクールの取組を進めるとともに、地域人材を活用し、地域とつながる授業づくりを行う。	地域との関わりに関するアンケート項目肯定的評価85%以上									
2	教職員の笑顔・元気・やる気	3	継続	幸せな職場環境の実現を進める。	- 教職員が設定した目標や感じた課題を交流・改善する場面を設ける等、学校全体でつながる機会を設定する。 - 学年や分掌で、役割分担・取組の共有を行い、業務の効率化を進め、定時退校日に定時退校できるようにする。	- 教職員アンケート「支え合う職場環境」に関するアンケート項目肯定的評価90%以上 - 教員のやりがい100% - 時間外勤務45時間以内の達成率80%以上									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。